き能力を報告する。 ホジロザメの驚くべ まう全開の口ではな ころである、このホ 現在、 国立科学博物館は口を再現したのだ。 日本初公開 IIOIIX——NORRRYOTX

佐藤さんと 300kg オスのホホジロザメ また彼らは、

徴である三日月形の尾 珍しい特

チャンスは

の月二日まで

は貴重な機会だろう。

かなか見ることができな 海の中の捕食シーンはな

い。その意味でこの展示

行われている。しかし、 繋がりは今この瞬間にも

らの歯の縁は、ノコ 藤圭一さんによれ 割は充分には解明され ギリ状で獲物を切り で噛む力が一・八トた。これを企画した、 ザメ。海洋生物の中 標本の展示に挑戦し ター展』最大の見ど せ方に苦心したそう 魚の全身液浸標本。し 学博物館『海のハン 語る。しかし歯の見 する。今回は国立科 も顎と歯である」と アイデアを重ねて製作 裂くときに力を発揮 特徴はなんといって ンと第一位を誇る彼 沖縄美ら島財団の佐 肉性魚類、ホホジロ 世界最強の ば「ホホジロザメの ザメ成魚の全身液浸 日本で初のホホジロ されたホホジロザメ成 水平尾翼のような構造 ていない。 も観察できる。この役 造だ。尾鰭の付根には、 かつ速く泳ぐための構 鰭を持つ。効率よく、 多くの労力と時間、

1161

機能は抑える

うに粘液を放出すものも

喰うか、

喰われるかの

いれば、ヌタウナギのよ

れないようにするものも を大きく見せて飲み込ま

手に刺すものもいる。 食は、鋭い歯を使うものも 捕食方法。エネルギーの奪 いれば、自らが持つ毒を相 い合いともいえる彼らの捕 今回の注目はそれぞれの また食べられないための

学博物館「海のハン る中開催された。主 多くの関係者が集ま ター展」の開会式は 七月七日、 数のカングニ 国立科 食について注目し に顎と歯の進化にス ポットを当てた」と報 道陣に語った。 生命を繋ぐための捕

催者を始めとする

食やそのための進化を

方々からの挨拶。

監

遂げてきた生命の神秘

から2番目)は「海 林良博館長 (写真左 カットが行われた。 修者の紹介、テープ のハンター展では捕 国立科学博物館の もしれない。 ター展」。一 ができる「海のハン について深く知ること。 方や価値観が変わるか 生命に関する考え 度訪れれ

だ。目が反転してし

あえて半開きの

が発見されるだろう。 の標本から新たなこと 究はまだ謎は多い。こ かしホホジロザメの研

> レイアウトデザイン 阿部

手段も非常に大切だ。

液浸標本

編集 編集部 の筋肉を成長過程の中

やアシカ、

セイウチな

水の中を泳ぐため

にも哺乳類のアザラシ

年前、

推定全長一五か

大きさは、

んによれば、

千数百 原現

万

うにギザギザしている。

歯の縁は、

ら一七メートル程の巨

大なサメ

メガロド

南極にいる動物は他

宣代の巨大バンタ

ドンに迫る

太迫力の模型

型と出会える。

で発達させたそうだ。

が

'セイウチ

ぶための筋肉の代わり

たらしいが、

一〇分潜る。

ンは水中で普通

圳 連 鎖と弱 内 強 食の世界 髭る雅り

などはペンギンを襲う

レイアウトデザイン

青山

によって腹を突き破 したクラドキクルス



飛べない鳥のペンギ というプリップラシを説明する 田島さん

どが平たく飛びやすい 保温をするためだけの ペンギンはフサフサで 羽毛であるのに対し、 さらに、 鳥のほとん

島木綿子さんは語

ヒョウアザラシ

乳類を監修した田 音は聞こえる」と

の背中にデータロガー をつけて研究を行った かった。鳥類を監修し ルも潜ることが最近分 は最大で三四三メート さを捕るために空を飛 は空を飛ぶことができ た濱尾章二さんによれ かつてのペンギン オウサマペンギン ペンギン 水中のえ 性が高い 進化したからであると も生きていけるように 濱尾さんは語る。 ギンたちが極寒の地で 羽毛だという。 羽毛の量だけでなく皮 --脂肪も多 それはペン いため断熱 また、 る。

シカ科に似ている。 アザラシ科に似てい は耳介がない点では るが、身体の形はア ことがあったり、 徴も様々だ。 もとどまることができ ラシは水中で一二〇分 を誇るミナミゾウアザ ラシ科で最大の大きさ り、 アザ

いる。 海で泳ぐことを助けて よりも軽い脂肪と発達 行っているそうだ。 ことを利用して保温を 体ほど熱が逃げにくい た筋肉が動物たちが また、彼らは大きい 水

種類によって特 \equiv

見

集約させる役目があ

耳介がなくて

耳介とは外側に突出

した部分で音をより

隠れた新発 歯の化石など、たくさ 模型や絶滅した巨大ザ ター展」では、 メであるメガロドンの

肉食だったと考えられる。 が地球上いたそうだ。会場 では顎の復元模型と全長 チを超えるものもあ 使うほど磨り減ってし 五メートルの全体模 その歯の鋭さから 歯しか残ってい。 高さが一〇セ ノコギリのよ メガロドン んの化石が展示されて 歯 まうので何度も生え変わって か 類などを捕食していたが、 の強力な歯を使いヒゲクジラ いたそうだ。メガロドンはそ でメガロドンは、 に絶滅したと考えられる。 恐れられたことだろう。 「終わり (二六○万年前ごろ チなどのライバルの出現 会場に足を運べば実感でき 気候変動によって鮮新世 その巨大な体と強力な歯 多くの生物

『歴史的な相討る』と いる。 されているのでその し変わった物も展示 その中には少

のタラソメドンの化石 われている「海のハン 国立科学博物館で行 首長竜 ラモプレウルスは、 たカラモプレウルス 丸のみして食べてい だが、この化石のカ ルス。普段から魚を であるカラモプレウ 性魚類の代表的な種 に生息していた肉食 例を報告する。 中生代白亜紀ごろ られ、 ドキクルスの頭が突 き出した状態で化 ルスの腹からはクラ カラモプレウ

る。 のみしてしまってい スという種の魚を丸 大きなクラドキクル そのため、 抵抗 ある。首長竜や珍し をお勧めしたい。 ークな化石などにも るのも良いが、 ことはなく、貴重な 目を向けてみること い生き物の化石を見 石は滅多に見つかる になったのだ。 このような形の化 示物があちこちに ユニ

神奈川県立大船 新聞委真会 http://www.ofuna-h.pen-kanagav /school-life/arts-club.html#news

http://www.ofuna-h.pen-kanagawa.ed.jp /school-life/arts-club.html#newspaper

編集 編集部 百